

平成14年度

班会議(研究成果発表会)

プログラム・抄録集

1-①-1

筋ジストロフィー患者の排痰障害へのパーカッション

国立精神・神経センター 吉田ヒデ子(看) 川口千寿子(看)
武蔵病院 塩川克宏(看) 太田勝美(看)
*大矢 寧(医) 川井 充(医)キーワード:呼吸不全 排痰困難 人工呼吸器 筋ジストロフィー
パーカッション(Percussionnaire)

【目的】

パーカッション(パーカッション社製インパルセーター)は肺を内部からパーカッションし、吸入を波動で肺内へ送り込んで、分泌物の流動化と排出を促す人工呼吸器である。適応は慢性呼吸疾患、肺炎や無気肺が挙げられている。痰喀出には患者の協力が必要だが、無気力・無関心から排痰訓練の導入が困難な患者や、急性肺炎などで急に排痰が困難になって入院する患者もいるため、筋ジス患者で使用を試みた。

【方法・対象】

痰の喀出状態、喀出量、自覚症状を観察した。適宜 SpO₂ もモニタした。吸入には肺炎の患者4名にピソルボン吸入液・蒸留水、5名で蒸留水5mlを用いた。運転送気圧は20~30psiとした。肺炎で挿管した呼吸器使用 DMD 患者1名では吸気ラインに直接接続して15~20分間を1日4回行い、必要に応じ追加した。肺炎を合併した肢帯型(PLV・鼻マスク)、DMD、MyD 各1名で1日1回、必要に応じ追加した。状態が安定している MyD 患者6名には1日1回行った。

【結果】

パーカッション使用により自覚症状は「スーとしてすごく気持ちがいい」「呼吸が楽になった」「ねばねばした痰がでる」など、全例で

改善した。カフレーターは「腹が張って気持ちが悪くなる」、「あれは絶対だめ」と語っていた MyD 患者でも、パーカッションの導入は容易で、後は日中の居眠りも少なくなり、訓練に意欲をみせ日常生活・行動拡大につながった。

使用後に痰が出てくることが多く、吸引を必要とする患者でも分泌物が増加した。肺炎を起こしたが、カフレーターは訓練していずに使えなかった DMD や MyD 患者でも、胸郭が硬かった肢帯型患者でも、導入は容易で、排痰に有効だった。SpO₂ は MyD の2名を除き、わずかながらも上昇し、とくに挿管中の DMD 患者で急に低下した SpO₂ の上昇をもたらした。

【考察】

カフレーターのように訓練が必要ではなく、肺炎の急性期にも導入が容易である。MyD 患者でも受け入れが良い。

人工呼吸器を使用しているも BiPAP でも PLV でも吸気ラインに接続し吸入することも可能である。振動は無気肺の改善にも役立つ。

短期使用の報告が多いが、患者の意識向上と予防的な観点から継続していきたい。

【結語】

パーカッションは急性期にも導入が容易で、また MyD 患者にも導入でき、有用である。

DMD:デュシェーヌ型筋ジストロフィー
MyD:筋緊張性ジストロフィー